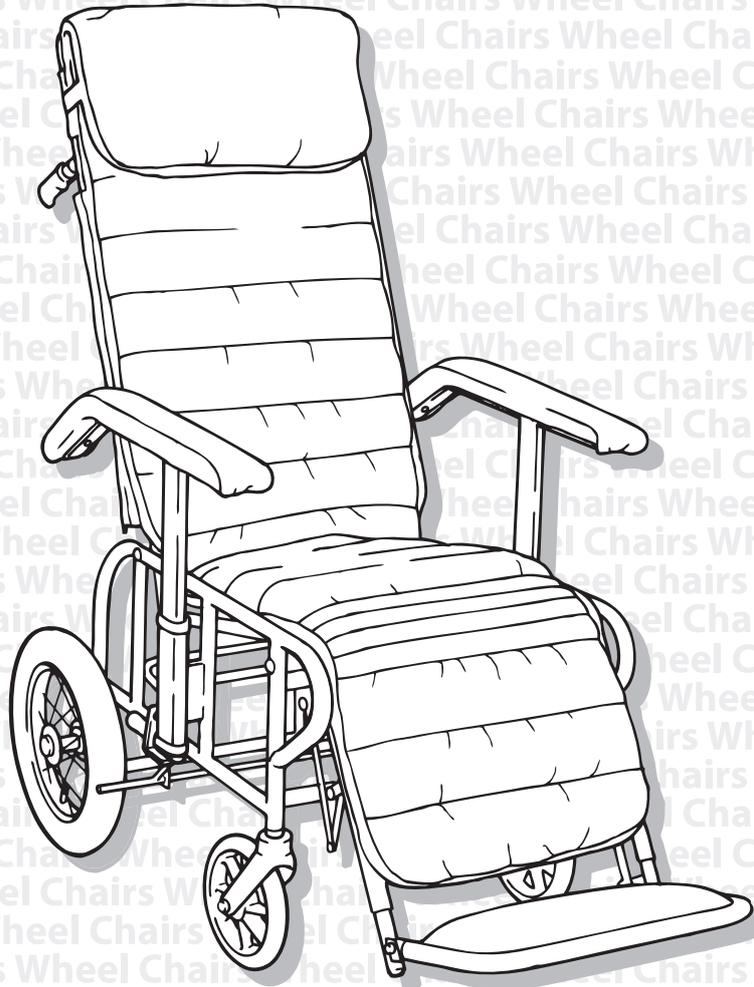


マツナガの車椅子

# フルクライニング シリーズ

取扱説明書

保存用  
保証書付



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所のフルリクライニング車椅子をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や、正しい使い方が説明されています。**ご使用になる前には、必ずお読みください。**また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。

この車椅子は車載を前提に設計されておりません。  
この車椅子は車の座席としての強度を考慮しておりません。  
座席として使用した場合には車載時の負荷により、車椅子が破損する場合があります。  
車載用として設計された車椅子もご用意しておりますので、お問い合わせください。

車椅子が、身体に合わない状態で乗らないでください。健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店または、かかりつけの病院にご相談ください。

- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

## ご使用まえに

製品につきましては、検査後出荷させて頂いておりますが、ご使用まえに次のご確認をお願いいたします。

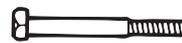
- 1 箱から出されたら表面のキズ、フレームのゆがみが無いか、あるいはダンボール箱の内外のキズが無いか確認してください。
- 2 タイヤを指で押して空気が入っているかご確認ください。(ブレーキの制動に影響します。)

もし異常があれば、すぐにお買い上げの販売店、または(株)松永製作所にご連絡ください。

## 付属品



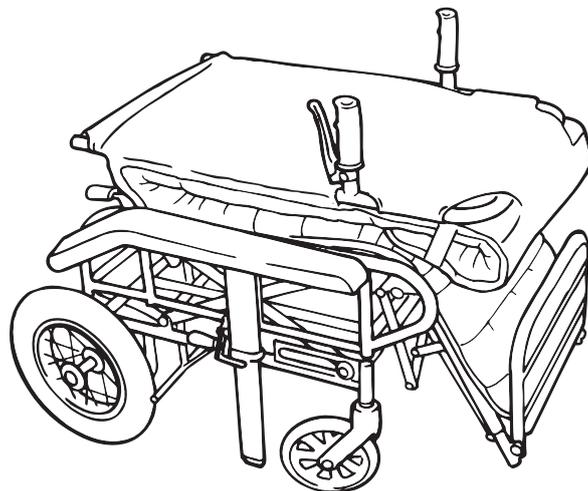
取扱説明書

 ×2本 六角ボルト

 ×2本 ナット

 ×2本 スパナ(対辺10mm)

## 梱包状態



# 目次

<b>安全にお使いになるためのご注意</b> .....	2
<b>各部名称</b> .....	3
<b>機種別寸法一覧・タイプ別機種名</b> .....	4
<b>組立方法及び各部操作方法</b> .....	6
フットサポートの操作方法 .....	7
アームサポートの操作方法 .....	7
フットブレーキの操作方法 .....	8
手動式リクライニングの操作方法 .....	8
手動式エレベーターの操作方法 .....	9
手動式上下調整の操作方法 .....	9
ティッピングレバーの操作方法 .....	10
<b>ご使用上の注意</b> .....	11
<b>もしこんなトラブルが発生したときは</b> .....	12
<b>車椅子のお手入れ方法</b> .....	12
ガススプリングのご使用方法について .....	14

# 安全にお使いになるためのご注意

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

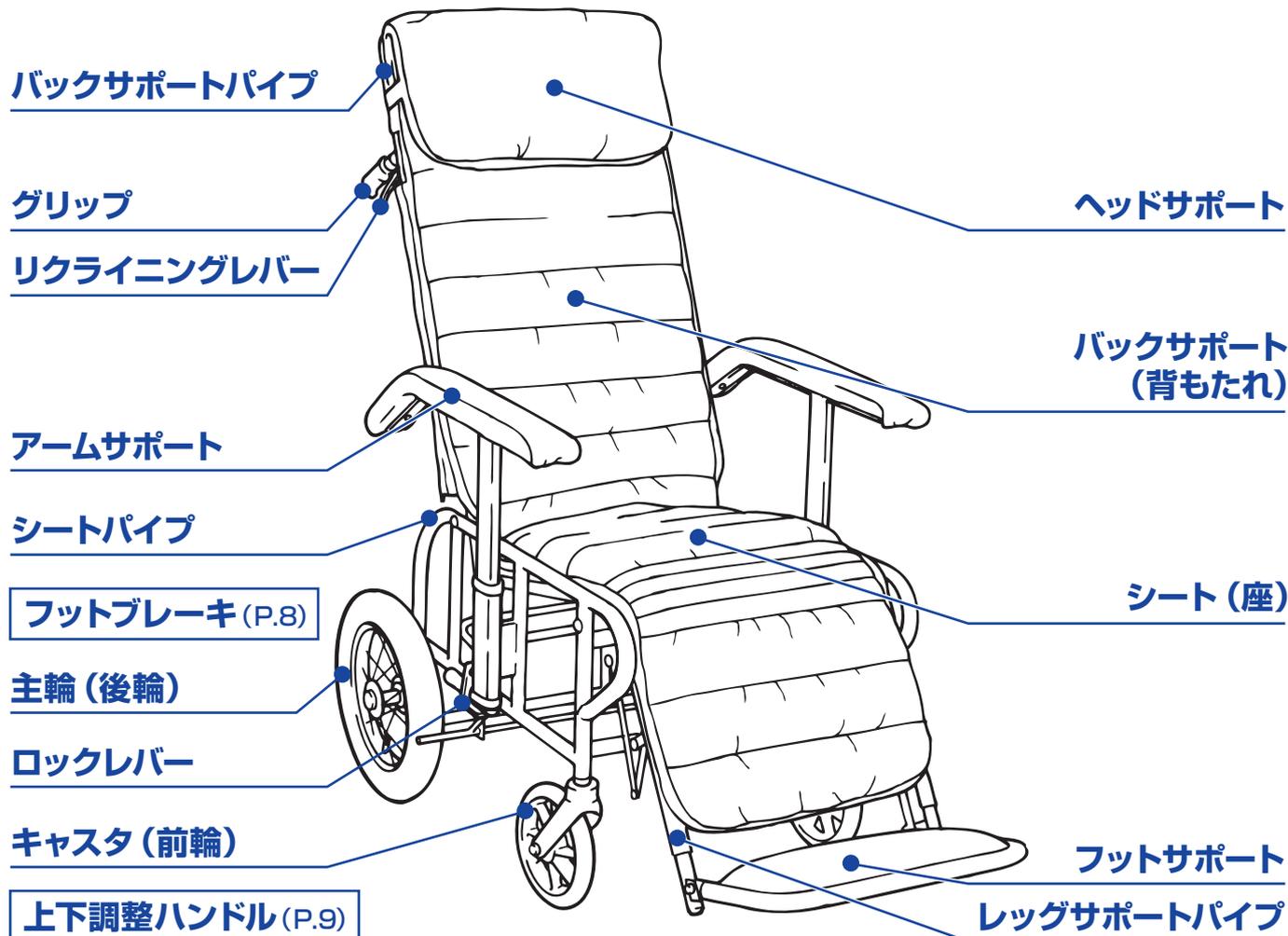
お守りいただく内容の説明	
 この表示は、してはいけない「 <b>禁止</b> 」内容です。	 この表示は、必ずしていただく「 <b>強制</b> 」内容です。

 <b>警告</b>	
<b>(禁止)</b>  しては いけない	<ul style="list-style-type: none"> <li>■タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。                      駐車ブレーキのロックができなくなり、車椅子が動いて、事故の原因となります。                      また、タイヤのパンクの原因となります。</li> <li>■フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。                      車椅子がバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。</li> <li>■車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。                      転倒・転落事故の原因となります。</li> </ul>
<b>(強制)</b>  必ずして いただく	<ul style="list-style-type: none"> <li>■<b>故障、異常のある時は直ちに使用を中止してください。</b>                      転倒・転落事故または、ケガの原因となります。</li> <li>■車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車ブレーキをロックしてください。                      車椅子が動き、転倒・転落事故の原因となります。</li> <li>■リクライニングをする時は、駐車ブレーキをロックしてください。                      車椅子が動いて、転倒・転落事故の原因となります。</li> <li>■側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。                      車輪が溝にはまって、転倒・転落事故の原因となります。</li> <li>■座高調整をする時は、駐車ブレーキをロックしてください。                      車椅子が動き、転倒・転落事故の原因となります。</li> </ul>

 <b>注意</b>	
<b>(禁止)</b>  しては いけない	<ul style="list-style-type: none"> <li>■急ブレーキ、急発進、急な旋回をかけないでください。                      車椅子使用者が前方へ転倒・転落する恐れがあります。</li> <li>■バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。                      車椅子が不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。</li> <li>■走行中、身体を乗り出さないでください。                      バランスが不安定になり、転倒・転落等事故の原因となります。</li> <li>■車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。                      手や指をはさんで、ケガをする原因となります。</li> <li>■走行中は急停車しないでください。                      転倒・転落事故の原因となります。</li> <li>■凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。                      バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。</li> <li>■バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。                      バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒・転落して事故の原因となります。</li> <li>■スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。                      使用者が車椅子から、転倒・転落して事故の原因となります。</li> <li>■坂道を下るとき介助者の方はくんだり坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。                      前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故の原因となります。</li> <li>■側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト(前輪)が落ち込まないように注意してください。                      車椅子が急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。</li> <li>■移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。</li> <li>■フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。</li> </ul>

<p><b>(禁止)</b></p>  <p>しては いけない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 車椅子を、横向きに倒して上に物を置かないでください。 重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。</li> <li>■ 車椅子で荷物を運んだりしないでください。</li> <li>■ 車椅子以外の目的で使用しないでください。</li> <li>■ 火気の近くに置かないでください。 タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。</li> </ul>
<p><b>(強制)</b></p>  <p>必ずして いただく</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保管する場所には十分注意してください。(P.13参照) 長期間使用しなかった場合には、各部の点検を行ってから使用してください。</li> <li>■ 車椅子の乗り降りは、必ず駐車ブレーキをかけ、路面の平坦な場所で行ってください。 車椅子が動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落等事故の原因となります。</li> <li>■ フットサポートが固定されているか確認してから使用してください。 フットサポートが脱落し事故の原因になります。</li> <li>■ フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。 路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車椅子が止まり、転倒・転落の事故の原因になります。</li> <li>■ フットサポート調整後は必ずボルトをしっかり締めてください。 フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。</li> <li>■ アームサポートを下ろすときは、指をはさまないようにご注意ください。</li> <li>■ 必ず固定されている箇所を持ってください。 操作レバー、ヘッドサポート、アームサポート、フットサポート、ブレーキなど持たないでください。</li> <li>■ 車椅子を持ち上げるときは座面の水平を保ち、使用者の転落には十分注意してください。</li> </ul>

## 各部名称



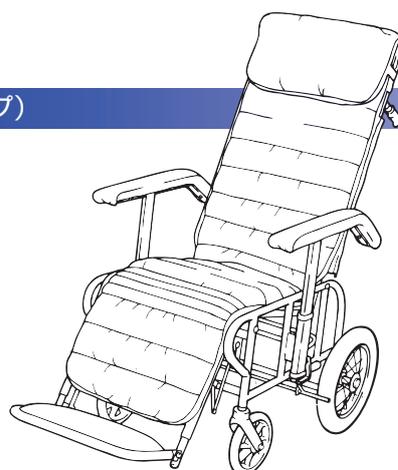
# 機種別寸法一覧・タイプ別機種名

機種	キャスタ車輪×大車輪 (インチ)	座幅 (mm)	前座高 (mm)	後座高 (mm)	肘パッド高さ (mm)	背もたれ高さ (mm)
1型	7×12	400	470	470	0・200	820
2型	7×12	400	470	470	0・200	820
4型	7×12	400	480～630	480～630	0・200	820

※肘パッドの高さは0・200の2段階の調整になります。

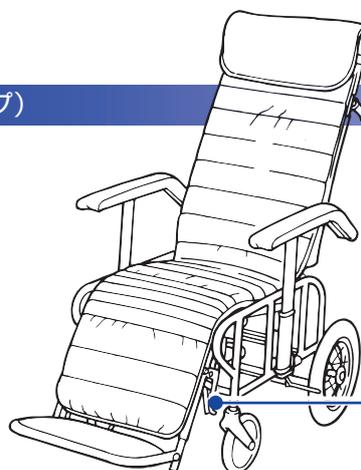
## 1型

リクライニング・エレベータリング手動式 (背・足連動タイプ)



## 2型

リクライニング・エレベータリング手動式 (背・足別動タイプ)



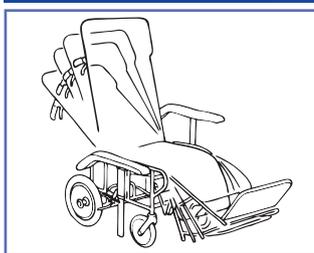
エレベータリング  
レバー

機種	フット長 (mm)	座奥行 (mm)	全高 (mm)	全幅 (mm)	リクライニング角度	重量 (kg)
1型	360 ~	450	1260	610	95° ~ 150°	26.1
2型	360 ~	450	1260	610	95° ~ 150°	26.3
4型	360 ~	450	1260	610	95° ~ 150°	36.3

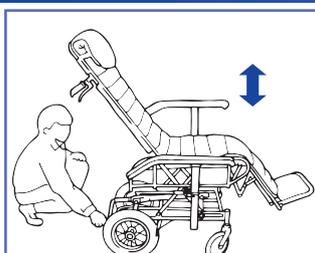
※フット長の調整はできません。リクライニング角度によりフット長が変わります。  
 ※全高はクッション上高さです。

## 4型

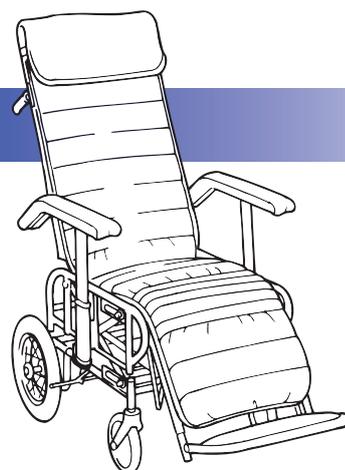
リクライニング・エレベータリング手動式(背・足連動タイプ)  
 手動座高調整式機構付



リクライニング・  
エレベータリング運動手動式



手動座高調整式

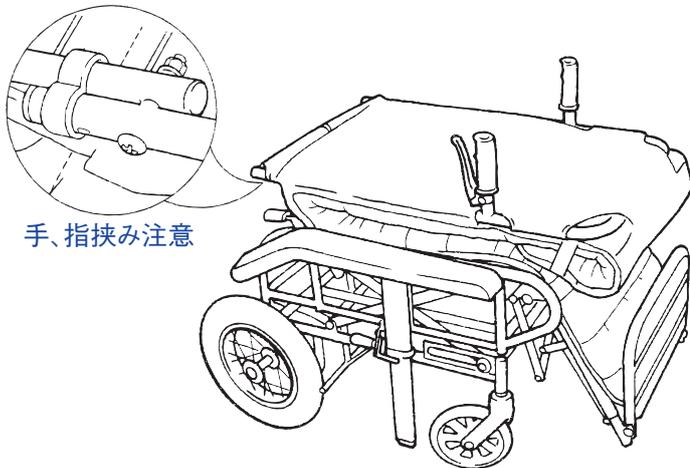


# 組立方法及び各部操作方法

- バックサポートを起こす場合はパイプ等に挟んでシートをキズ付けないようにご注意ください。

## 梱包状態

ダンボール箱から製品を取り出す場合はバックサポートを起こさず箱から出してください。

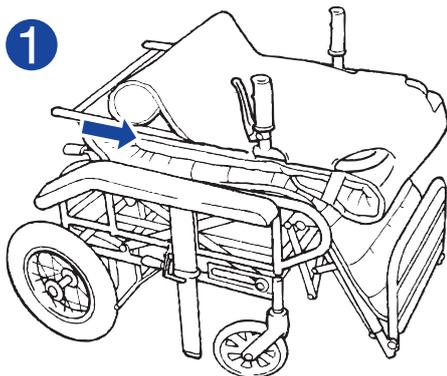


## ⚠ 注意

- 箱から取り出すときにバックサポートを起こさないでください。バックサポートを起こすとシートをキズ付ける恐れがあります。

してはいけない

## 組立方法

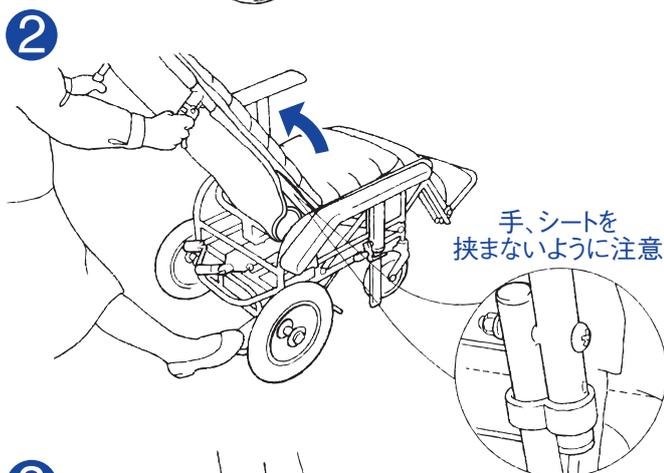


- 1 バックサポートの両側のファスナーを40cmほど開いて後ろ側シートを内側に折り込みシートが落ちてこないように固定してください。

## ⚠ 注意

- ファスナー、シートをキズ付けないようにしてください。

してはいけない

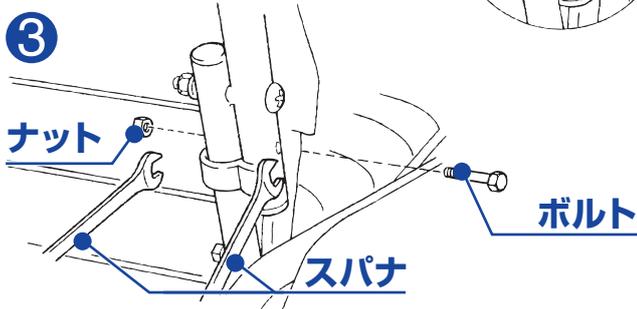


- 2 押手を持って矢印方向にバックサポートを起こしてください。

## ⚠ 注意

- 内側に折り込んだシートが落下しないように軽く押さえながら起こしてください。

していただく



- 3 付属のボルト・ナットとスパナを使用してバックサポートパイプ両側を固定してください。固定したらシートを元通りにしてファスナーを閉じてください。

## ⚠ 注意

- ボルト・ナットは十分締めつけて固定を確認してください。

していただく

## フットサポートの操作方法

1



①フットサポートは、折りたたんであります。

2



②車椅子に乗り、フットサポートを矢印方向に倒して、足をフットサポート上に乗せてください。

### ⚠ 注意

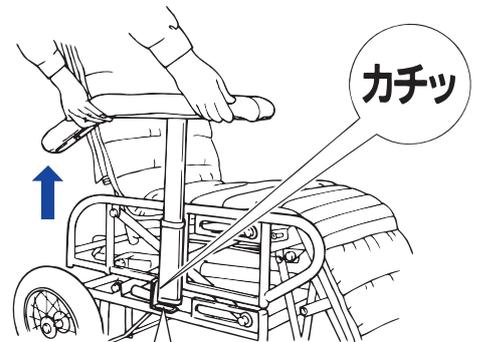
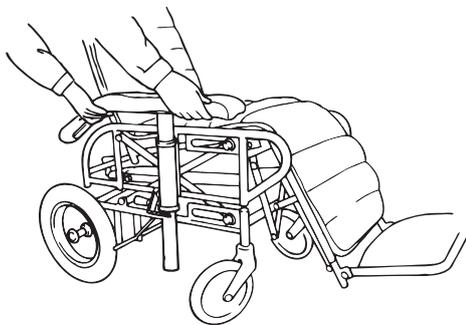


●車椅子に、乗る時、降りる時は絶対にフットサポートの上で立ち上がらないでください。車椅子が、バランスをくずし、乗っている方が転倒・転落してケガをする恐れがあります。

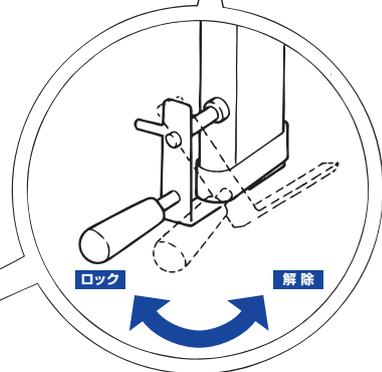
してはいけない

## アームサポートの操作方法

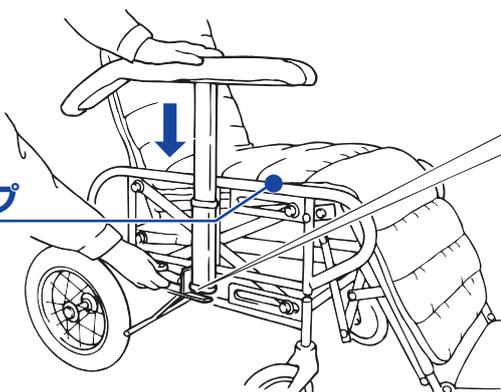
アームサポートを上げるときは、アームサポートを両手で持ち、上に引き上げてください。「カチッ」と音がしてロックします。ロックレバーが、完全にロック状態にあるか確認してからご使用ください。



アームサポートを下げるときは、アームサポートを持ち、ロックレバーを解除状態にしてゆっくり下げてください。



シートパイプ

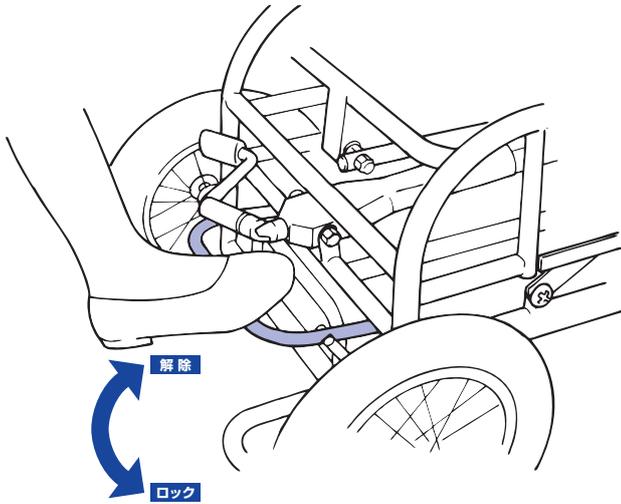


### ⚠ 注意

●アームサポートを下げる時は、アームサポートの下には指や手を入れないでください。アームサポートとシートパイプに、指や手を挟んでケガをする恐れがあります。

してはいけない

## フットブレーキの操作方法



### ⚠️ 注意

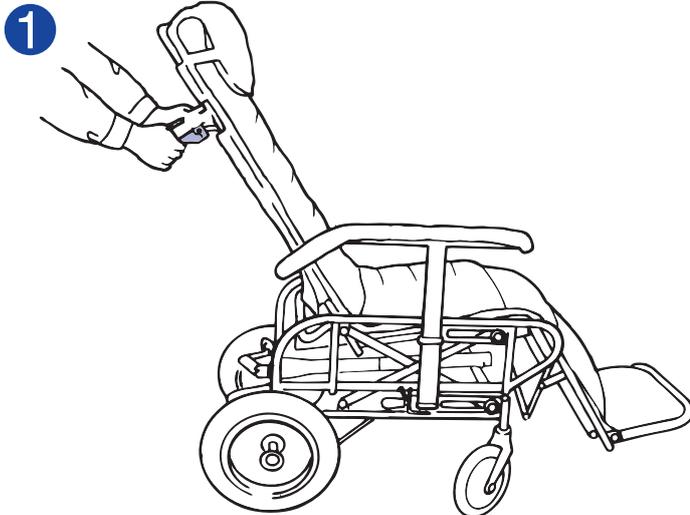
- 車椅子の乗り降り、リクライニング操作のときは必ずフットブレーキをロックし、車椅子が動かない状態にしてから行ってください。車椅子が動き、転倒・転落事故の危険があります。

していただく

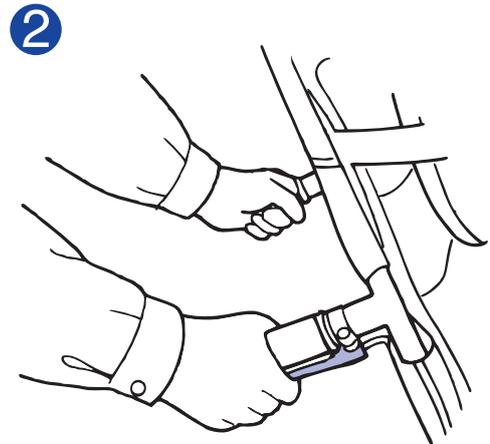
## 手動式リクライニングの操作方法

無段階で調整することが可能です。

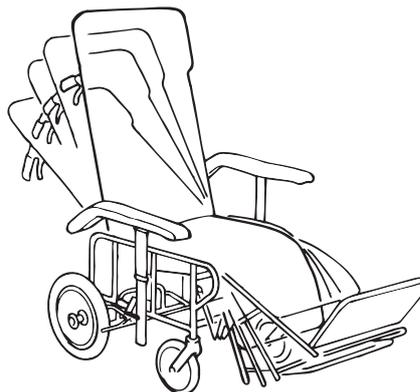
- ① グリップを持ち、リクライニングレバーを握りながら、バックサポートを前後に動かしてください。



- ② リクライニングレバーを離すと、その位置で固定できます。



### ⚠️ 注意

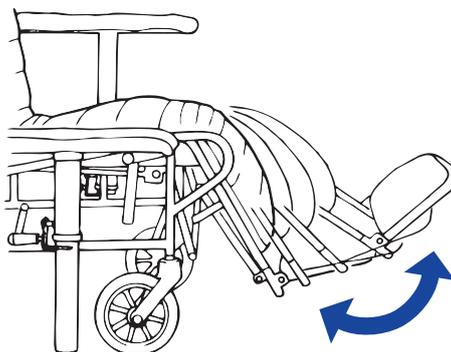
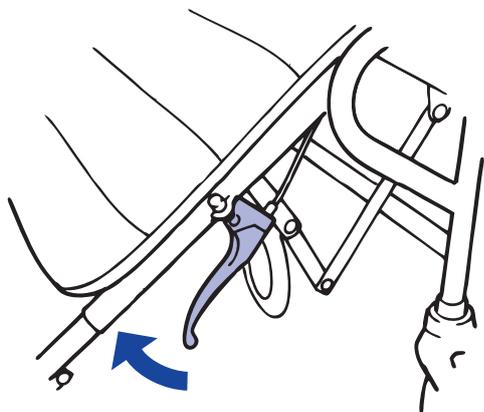


- 車椅子に乗っている状態で、バックサポートを倒したり起こしたり操作するときは、使用者の体重が後方にかかるのでしっかり支えてから行ってください。バックサポートパイプで、介助者の顔などを打ってケガ・転倒する危険があります。

していただく

## 手動式エレベータの操作方法(2型タイプのみ装着)

レッグサポートの調整は、エレベーターレバーを握りながら、もう一方の手で角度を調整してください。レバーを離すとその位置で固定します。



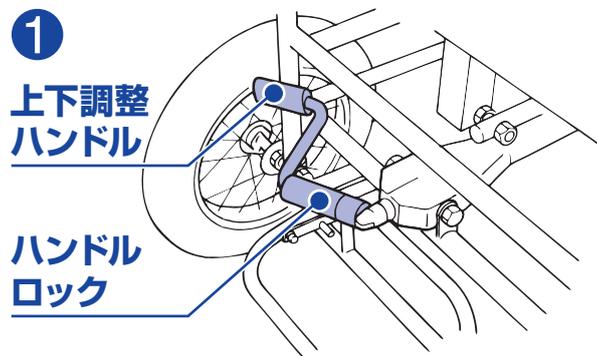
### ⚠ 注意

- フットサポートに足が乗った状態で調整するときは、介助者は、重みでレッグサポートが急に下がるので、手をパイプに挟んだりして危険です。しっかり支えてから行ってください。

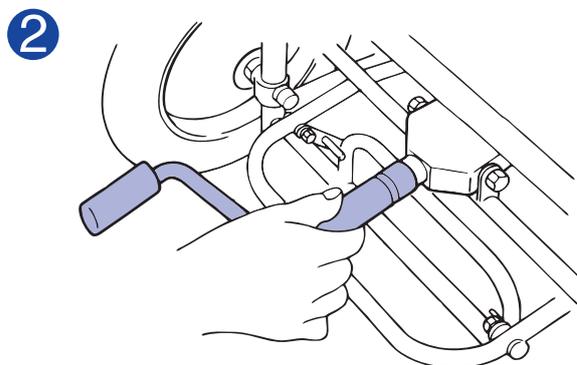
していただく

## 手動式上下調整の操作方法(4型タイプのみ)

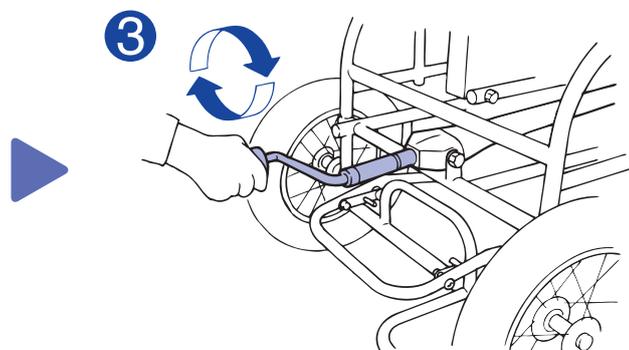
① 上下調整ハンドルは、使用しない時は折りたたんで収納しておいてください。



② 使用する場合は、上下調整ハンドルを手前へ引き出し、ハンドルロックを行ってください。



③ ハンドルを右へ回すと座面が上昇し、左へ回すと下がります。



上下調整ハンドルを折りたたむ際は、②から逆順にハンドルロックを手前に引きながら行ってください。

### ⚠ 注意

- 人が乗っている時は、必ず両側のアームサポートを上にご使用ください。転倒・転落事故の原因となります。



していただく

## ティッピングレバーの操作方法

2～5cmの段差を乗り越える場合は、必ず介助者はティッピングレバーを踏み、押手を押し下げ、キャスト(前輪)を上げ、次に主輪を浮かして乗り越えてください。

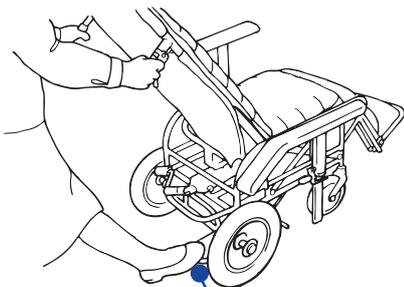
2～5cmの  
段差乗り越え方



### ⚠️ 注意

- 段差を乗り越えるときはバックサポートを起こし、絶対に勢いをつけて乗り越えないでください。使用者がふり落とされたり、パイプが曲がったりして危険です。

してはいけない



ティッピングレバー

### ⚠️ 注意

- 段差が5cm以上の場合は、使用者を車椅子から降ろして、車椅子のみを4～5人でフレーム固定部を持って行ってください。

していただく

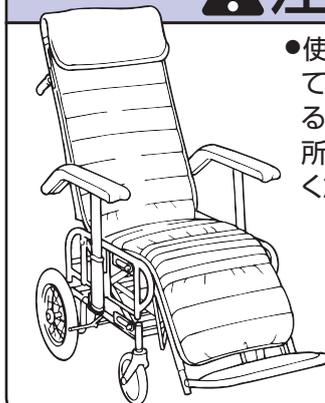
# ご使用上の注意

座面の昇降時及び、バックサポートリクライニングの動作中は、可動部に手や指を入れないでください。

挟まれて指などを切断する恐れがあります。

操作前には、必ず衣服及び手、指の巻込みの恐れがないか、確認してから可動してください。

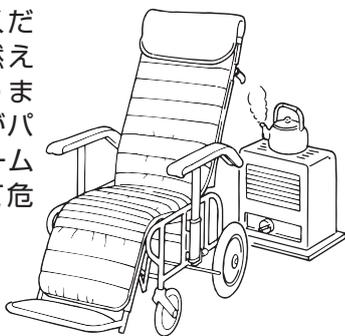
## ⚠ 注意



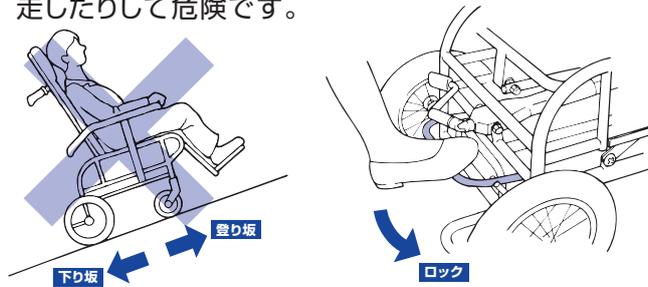
- 使用者の手や足が挟まれて、裂傷、切断のケガをする危険があります。指定箇所は特に確認して可動してください。

していただく

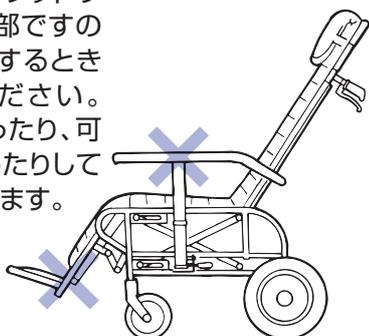
- ストーブなどの火気に近づけないでください。シートが燃える危険性があります。また、タイヤがパンクしたり、フレームパイプが加熱して危険です。



- 停車される場合は、平坦な場所でフットブレーキバーをロック状態にしてください。不意に車椅子が動いたり暴走したりして危険です。



- アームサポート、フットサポート部は、可動部ですので車椅子を移動するときは持たないでください。フレームが曲がったり、可動ができなくなったりして故障の原因となります。



- リクライニングした状態で、バックサポートシートの上に乗り込まないでください。バランスを崩し、車椅子が転倒してケガをしたり、フレームパイプが曲がったりして故障の原因となります。



- 車椅子の上で立ち上がらないでください。車椅子が転倒したりしてケガをする恐れがあります。



# もしこんなトラブルが発生したときは

車椅子をご使用されていて「故障かな」と思うトラブルが発生したら、修理を依頼する前に下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	スーパervalブが劣化していませんか	スーパervalブを交換してください
走行操作が重い	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	主輪・キャスト（前輪）に髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	キャスト（前輪）が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください

## 車椅子のお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧：280kPaを適正に保ってください。  
空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン (O<sub>3</sub>)
- 光線 (日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス (自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤 (錆落とし含む))。

■車椅子に異常がある場合は、取扱店で、点検・修理を行ってください。  
そのままの状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ネジの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・がたつき
- 主輪・キャストの変形
- 制動用ブレーキ・駐車用ブレーキの効き具合

## 保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 湿気の多いところ
- 炎天下
- 直射日光が当たるようなところ
- 高温になるところ

## 保証

保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

- 1 火災、天災による故障・損傷の場合
- 2 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
- 3 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
- 4 タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、制動用ブレーキ用ワイヤ、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
- 5 修理に要した運賃等の諸経費

この保証書は日本国内のみ有効です。

## アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

# <ガススプリングのご使用方法について>

ガススプリングを使用した車椅子を正しく、安全にご使用していただくために、下記をよくお読みください。



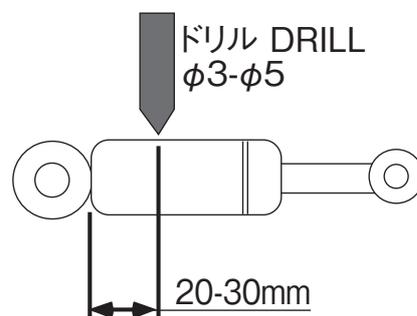
## ■ご使用上の注意



### 注意

高圧ガスが封入されています

- 分離したり火に入れないでください
- 廃却のときは、チューブの下部に穴をあけ、ガスを抜いてください
- このとき、オイルや切粉が飛散しますので、保護メガネを着用ください



## ■飛行機等への搭載

ガススプリングを使用した車椅子は、飛行機等に搭乗される際に「非該当証明書」の提出を求められる場合があります。非該当証明書が必要な場合には、(株)松永製作所までお問い合わせください。